

主要事業評価シート(第1次実施計画/H29・30・R1年度)

① 基本事項	計画コード	事業名		部名	健康福祉部
	18001	地域福祉力強化推進事業		課名	地域福祉課 福祉総務G
	施策の大綱	02:健康で生きがいを持てる暮らしの充実		会計	01:一般会計
	基本施策	01:地域福祉力の向上		款	03:民生費
	施策の方向	03:地域での助け合い・支え合いのしくみづくり		項	01:社会福祉費
戦略プロジェクト	-		目	01:社会福祉総務費	
事業予定期間		H 30 ~ R 3 年度	主な根拠法令要綱等	社会福祉法(第106条の3第1項)	

② 目的・概要	対象	市民
	目的	地域まちづくり協議会での福祉課題を解決する仕組みを構築し、地域における助け合い・支え合い活動を促進することで、地域福祉のネットワークを強化し、多様な人々がともに暮らせる地域共生社会の実現を目指す。
概要	亀山市社会福祉協議会にコミュニティソーシャルワーカー(CSW)を配置し、地域まちづくり協議会の福祉委員会における「地域の福祉課題を解決する仕組みづくり」への支援を行う。	

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	
③ 事業の計画・実績	年度計画		○コミュニティソーシャルワーカーの配置 (亀山市社会福祉協議会内)	○コミュニティソーシャルワーカーの配置 (亀山市社会福祉協議会内)	
	年度実績		○地域福祉力強化推進事業 【個別支援】 CSW(専任2人)を配置し、新規相談件数82件、延べ相談件数449件 【地域支援・しくみづくり】 CSW(専任2人)を配置し、井田川北まちづくり協議会における地域の福祉課題を解決する組織の立ち上げ支援		
事業の計画・実績	計画額	事業費	8,000千円	5,000千円	
		国庫支出金	6,000千円		
		県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源	0千円	2,000千円	5,000千円
	予算額	事業費		8,000千円	
		国庫支出金		6,000千円	
		県支出金			
		地方債			
		その他			
		一般財源	0千円	2,000千円	0千円
	決算額	事業費 ①		8,000千円	
		国庫支出金		6,000千円	
		県支出金			
地方債					
その他					
一般財源		0千円	2,000千円	0千円	
人件費	総人件費 ②	0千円	1,557千円		
	一般職員	0千円	1,557千円		
	所要人員		0.20		
	臨時職員等		0千円		
総コスト(①+②)		0千円	9,557千円		
受益者負担率		0.0%	0.0%		

				平成29年度	平成30年度	令和元年度
④ 指標	①	名称	福祉委員会への参加回数	計画値		50
			コミュニティソーシャルワーカーが地域まちづくり協議会における福祉委員会に出席した回数	実績値		51
				単位		回
②	名称	地域福祉課題解決体制構築組織数	計画値		2	4
		地域住民自らが福祉課題を発見し解決する仕組みを構築した地域まちづくり協議会の数	実績値		1	
			単位		地区	地区
③	名称		計画値			
			実績値			
			単位			

⑤ 事業の改善行動	前回評価	【前回評価の対応方針の概要を記入】
	改善行動	【前回評価の対応方針を踏まえ、どのような措置を講じたか】

		評価	(判定)
⑥ 事業の評価	活動	<p>【計画どおりに実施できたか】</p> <p>亀山市社会福祉協議会に配置したCSW(コミュニティソーシャルワーカー)は、各地域まちづくり協議会の福祉委員会に参画し、個別の相談や、地域の福祉課題への支援に取り組むことができた。また、より広く、CSWを地域に認知してもらうため、社会福祉協議会と一緒に地域福祉計画・地域福祉活動計画の説明とあわせ、平成30年4月からスタートさせた地域福祉力強化推進事業の概要について、全22地区の地域まちづくり協議会に対し説明を行うとともに、11月には日常生活のちょっとした困りごとに対応する「ちょこっとボランティア(=ちょこボラ)」の育成及び住民相互の支え合うしくみづくりに向けた全体研修(全22地区対象)を実施した。</p>	A
	成果	<p>【成果は順調に上がったか】</p> <p>これまで対応が困難であったゴミ屋敷問題など制度の狭間の個別相談にもCSWが積極的に介入することができ、問題解決に向けて取り組める体制が構築された。また、全体研修を受けて、井田川北まちづくり協議会では、先進地視察(四日市市平津新町)を実施し、屋生地区まちづくり協議会では、平成30年7月からフレンドサービス(有償ボランティア)が立ち上がるなど、積極的に住民相互の支え合いのしくみの構築に取り組む地域まちづくり協議会が出現した。</p>	B

計画どおり実施できた
まずまず成果を得た

⑦ 今後の対応方針	課題	<p>【課題は何か】</p> <p>CSWが個別ケースの支援(新規82件、延べ相談件数449件)を展開する中で、高齢の親と働いていない独身の50代のひきこもりの子が同居する世帯や、母が精神疾患を有し、子ども知的障がい家庭内を片付けられないごみ屋敷など、従来の単独の機関で対応できない多様化・複合化した課題が顕在化している。 全22地区の地域まちづくり協議会に働きかけた結果、2地区のみの活動に留まった。</p>	<p>今後の方向性</p> <p>□ 拡大 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> その他</p> <p>【その他の場合、その内容を記載】</p>
	対応	<p>【課題に対し、どのように対応するか】</p> <p>多様化・複合的な課題を抱える者に対する包括的な相談支援体制の構築に向け、社会福祉協議会に配置したCSWと連携し、まずは市内部のネットワーク化を図り、チームアプローチができる体制づくりを進める。 地域まちづくり協議会に対し、さらに積極的な働きかけを行う。</p>	
	効果	<p>【対応することで、どのような効果が期待できるか】</p> <p>現状では、適切なサービスを受けることができない住民が、どこに相談に言ったら良いのか分からない状態を回避できるとともに、多様化・複合化した世帯全体の福祉課題に対し、包括的に受け止め、相談支援につなげることができる。 活動する地域を増やすことで、市全体の取り組みにつながる。</p>	
対応時期		令和元年度	

【1次評価者】	健康福祉部 地域福祉課 福祉総務グループリーダー 小林 吉秋
【最終評価者】	健康福祉部 地域福祉課長 小林 恵太

(参考:前期基本計画期間(H29-R3)における評価履歴)

		H29	H30	R1	R2	R3
判定	活動		A			
	成果		B			